

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮西小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	高学年では、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、中学年では個人差が大きい傾向があることから、個別に必要な支援をしていく必要がある。「学校課題研修」、「西っ子トライアル」、「学習履歴確認期間」、「西っ子学習相談室」等の個別最適な学びを実現させるための取組をより充実させていきたい。また、解答類型の分析から得られた本校児童の履きの傾向を意識した授業のあり方について、研修を深めていきたい。
思考・判断・表現	国語では、書き手や話し手の意図を読み取る問題に課題が見られた。国語の学習では、目的意識や、相手意識をもって、言語活動ができるよう、研修を深めていく。また、算数では中学年を中心に問題場面をイメージできていない傾向が見られるため、問題場面を図に表す活動や、比較検討の際に、図・式・言葉に関連付ける活動を重視していきたい。また今後も全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果を分析する機会を設け、「思考・判断・表現」の力を育てるための授業のあり方について研修を深めていく。
主体的に学習に取り組む態度	全ての教科において、児童とともに課題を設定できるようにするとともに、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定したり、授業中に必ず自己の振り返りの時間を設けたりすることで、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。また、コーチングの視点を取り入れた指導を行うことで、一人ひとりの子どものやる気を引き出し、学習に意欲的に取り組めるようにしていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算などの反復・習熟に取り組む。 定期的な「学習履歴確認期間」を設け、学習の計画を立てられるようにしていく。 学習の成果を「西っ子トライアル」の時間に確認し、必要な支援が行えるようにしていく。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。	⇒ ・表現力を向上させるため、話し方・聞き方のポイントを全校で統一して指導し、相手意識をもって説明できるようにする。 ・R5全国学力・学習状況調査の分析する機会を設け、「思考・判断・表現」の力を育てるための授業のあり方について研修を深める。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びR5年度市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ ・全ての教科において、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語は、3年-12pt、4年-11pt、5年+3pt、6年+1ptであった。算数は、3年-1pt、4年-6pt、5年+3pt、6年+1ptであった。市の平均の変化を加味すると、5、6年は国語、算数とも正答率の上昇が見られた。	B
思考・判断・表現	R5さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語は、3年-5pt、4年-6pt、5年+5pt、6年-1ptであった。算数は、3年-1.2pt、4年-5.8pt、5年+3pt、6年-2ptであった。「思考・判断・表現」の力を育てていくために、手立てを講じていきたい。	C
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、R4年度調査よりも3pt上昇したものの目標にはわずかに届かなかった。R5市学習状況調査でも目標に対して若干下回った。授業の充実を図り、子どもの学びに向かう力を育てていきたい。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-4pt、算数-5ptであった。国語の日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題で解答類型を見てみると、自分が主語の時に尊敬語を使っている児童が多かった。算数の加法と減法の混合した整数の計算の問題で解答類型を見てみると、前から順に計算している児童が多かった。基礎的な知識・技能の定着を図るために、「ドリルパーク」等をさらに活用したり、西っ子トライアルで課題が見られる問題に取り組ませたりしていく。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-5pt、算数-5ptであった。国語では、目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることに課題が見られた。目的を意識して資料を集めて書く活動を、国語だけでなく様々な教科・領域で取り組ませていきたい。算数では、「変化と関係」や「図形」の問題で、答えは求められるものの、求め方を式や言葉で説明することに課題が見られた。答えを求める過程を図・式・言葉で説明する活動を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は88.5%で目標値に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、「漢字を文の中で正しく使う」問題に課題が残った。一方、「主語、述語の関係をとらえる」問題では、類似問題の経年での比較より、正答率の上昇が見られた。算数では、小数の減法に課題が見られた。誤答をみると、小数点を揃え、位ごとに計算できていないものが多かった。	小4	国語の「書くこと」の問題に課題が見られた。文章を推敲した意図が読み取れていない解答が目立った。授業で「書く」活動の際に、目的意識や相手意識をもてるよう指導する必要がある。算数では、「除法」の場面を選ぶ問題に課題が見られた。問題場面を図に表す活動を重視していきたい。
小5	国語では、「話すこと・聞くこと」の設問の多くで、類似問題の経年での比較より、正答率の上昇が見られた。算数では、R5さいたま市学習状況調査において、R4年度調査より「知識・技能」+3pt、「思考・判断・表現」+5ptであった。「合同な三角形をかくために必要な構成要素」を考える問題に課題が見られた。	小6	国語の「話すこと・聞くこと」の問題に課題が見られた。普段の授業の話し合い活動の際には、どんな目的でそれを行っているのかを頭に入れて話したり聞いたりすることが必要である。算数では、「割合」の「比較量」を求める問題に課題が見られた。普段から図に表して、関係をとらえられるようにしていきたい。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし